2022 年度ライフスタイルと社会意識に関する調査報告書 (正式調査名:ライフスタイルの形成と社会意識に関する調査)

(公財) たばこ総合研究センター 研究部

本報告書は、政治や社会に対する価値観、及び社会経済的地位と、嗜好品などの飲食や余暇といったライフスタイルやそのようなライフスタイルの形成メカニズムとの関係性を明らかにするために行われた、「ライフスタイルと社会意識に関する調査(正式名:ライフスタイルの形成と社会意識に関する調査)」の結果についての報告書である。本報告書の目的は、当該調査の概要及び、各調査項目の回答分布を示すことにあり、本格的なデータ分析の結果および、研究成果を示すものではないが、そうした最終的な成果を得るための第一歩として調査結果を整理して概観することは重要であると考える。以下、まずは本調査の概要について述べておく。

本調査は 2023 年 | 月から 2 月にかけて郵送法で実施された。 調査の対象は 2022 年 | 月 | 日時点で 20~69 歳の日本国籍を有する男女であり、選挙人名簿(閲覧が許可されなかった 場合は住民基本台帳で代用)を用いた層化三段無作為抽出で選ばれた 4,500 名の方に調査 票を郵送して調査への協力を依頼した。層化にあたっては一層目を市区町村、二層目を町丁 目としている。一層目の市区町村は8つの地域ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿、 中国、四国、九州・沖縄)と、4 つの都市規模(政令市・特別区、人口 15 万人以上の市、人 ロ 15 万人未満の市、町村) を組み合わせて全国の市町村を 32 のブロックに分けたうえで、 2022年 | 月 | 日時点の住民基本台帳人口に基づいた比例無作為抽出によって 250 市区町村 を抽出し、二層目では一層目で選ばれた市区町村ごとに、それぞれ3町丁目を無作為抽出し ている。最後に三層目として各町丁目において6名の個人を無作為抽出し、250×3×6=4,500 名というサンプル設計になっている。調査の実施は株式会社日本リサーチセンターに委託 した。4,500 名のうち、2,300 名から調査票の返送があり、回収率は 51.11%となっている。 郵送調査としては高い回収率になっているが、その一因としては謝礼の先渡しがあると思 われる。一般的には有効回答票の返送があった対象者に対して謝礼を後日送るという形が 多いが、本調査では回収率をなるべく高くするために、調査票に謝礼の QUO カード 1,000 円 分を同封して配布している。 また、 調査票記入に使えるようボールペン | 本も同様に調査票 に同封することで、封筒に厚みを持たせ、封筒を開封してもらえる可能性を高めている。

本調査票では、本人のライフスタイルと政治的態度などの社会意識、そして個人の属性や 社会経済的地位を質問するとともに、ライフスタイルの形成メカニズムを明らかにするために、出身家庭(両親)のライフスタイルや社会経済的地位に関する内容も質問されている。 以下ではこれらの質問項目について、それぞれ回答分布の一覧を示していく。 調査票(末尾に付録として添付)の順番に従って、問 I の幸福感から順番に度数分布表、 もしくはヒストグラムなどを示していく。

表 1. 幸福感の分布

	度数	有効%
0 とても不幸	5	0.2%
1	12	0.5%
2	36	1.6%
3	117	5.1%
4	120	5.2%
5	394	17.2%
6	255	11.1%
7	459	20.0%
8	495	21.6%
9	187	8.2%
IO とても幸せ	210	9.2%
合計	2290	100%
NA	10	

表 2. 階層帰属意識 10 段階の分布

	度数	有効%
0 下	15	0.7%
	34	1.5%
2	82	3.6%
3	269	11.8%
4	295	12.9%
5	631	27.6%
6	391	17.1%
7	330	14.4%
8	173	7.6%
9	36	1.6%
10上	29	1.3%
合計	2285	100%
NA	15	

幸福感は 7 や 8 といった比較的高い幸福感を示す回答が多くなっている一方で、回答者本人が日本社会の中で上の方に位置していると思うか、下の方に位置していると思うかを回答してもらう階層帰属意識においては 5 という中間を示す回答が多くなっていた。

表 3. 各種満足度の分布

		とても	不満								とて	も満足			
		0	- 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	非該当	NA
A.生活全般	度数	15	19	51	181	190	480	302	436	373	130	107	2284		16
八. 工冶主版	有効%	0.7%	0.8%	2.2%	7.9%	8.3%	21.0%	13.2%	19.1%	16.3%	5.7%	4.7%	100%		
B. 自分の友人関係	度数	32	33	65	131	142	530	247	367	365	156	217	2285		15
0.日月仍及八国际	有効%	1.4%	1.4%	2.8%	5.7%	6.2%	23.2%	10.8%	16.1%	16.0%	6.8%	9.5%	100%		
C. 自分の仕事内容	度数	48	40	85	164	154	433	270	310	290	102	96	1992	293	15
0.日月77日季17日	有効%	2.4%	2.0%	4.3%	8.2%	7.7%	21.7%	13.6%	15.6%	14.6%	5.1%	4.8%	100%		
D. 現在の居住地域	度数	19	22	45	102	131	456	263	388	434	209	217	2286	_	14
0. %任0/冶工地域	有効%	0.8%	1.0%	2.0%	4.5%	5.7%	19.9%	11.5%	17.0%	19.0%	9.1%	9.5%	100%		
E. 自分の収入	度数	108	91	147	306	281	446	260	292	222	70	62	2285	_	15
L. H J V 14 A	有効%	4.7%	4.0%	6.4%	13.4%	12.3%	19.5%	11.4%	12.8%	9.7%	3.1%	2.7%	100%		
F. 家庭全体の収入	度数	49	68	127	251	251	505	284	328	246	85	83	2277		23
1. 参展主体仍仅入	有効%	2.2%	3.0%	5.6%	11.0%	11.0%	22.2%	12.5%	14.4%	10.8%	3.7%	3.6%	100%		
G.自分の趣味、	度数	35	44	94	203	217	487	265	348	309	150	139	2291		9
余暇の過ごし方	有効%	1.5%	1.9%	4.1%	8.9%	9.5%	21.3%	11.6%	15.2%	13.5%	6.5%	6.1%	100%		

表3には生活全般に関する満足度をはじめとした、各種の満足度を示している。どれも中間の回答が多いが仕事や収入に関しては比較的不満も多く、逆に友人関係や居住地に関しては満足している人が多い。

表 4. 社会的寛容性の分布

		反対	どちらかと いえば反対	どちらとも いえない	どちらかと いえば賛成	賛成	合計	NA
Λ 1 呑の田かり1 ロ	度数	107	304	1102	542	237	2292	8
A.人種の異なる人々	有効%	4.7%	13.3%	48.1%	23.6%	10.3%	100%	
B.移民や外国人労働者	度数	142	434	1089	439	187	2291	9
D. 移民 (有効%	6.2%	18.9%	47.5%	19.2%	8.2%	100%	
C.宗教の異なる人々	度数	175	445	1139	372	161	2292	8
し.示教の異なる八ペ	有効%	7.6%	19.4%	49.7%	16.2%	7.0%	100%	
 D. 同性カップル	度数	119	220	1032	566	353	2290	10
D.同臣の テクル	有効%	5.2%	9.6%	45.1%	24.7%	15.4%	100%	
E.ふだんから	度数	61	207	1050	621	353	2292	8
外国語を話す人々	有効%	2.7%	9.0%	45.8%	27.1%	15.4%	100%	

表4の社会的寛容性についてはA~Eのような人が身の回りに増えることに対する賛否を聞いたものである。中間回答が多数を占めるが、異なる宗教を信じる人に対する寛容性が比較的低いという結果が得られている。また、移民や外国人労働者に対する寛容性もやや低い結果となっている。その一方で異なる人種や普段から外国語を話す人に対する寛容性は高い結果が得られていることは興味深い。暗黙のうちに想定している外国人像が設問によって異なっているのかもしれない。

表 5. 各社会意識の分布

		そう	ややそう	どちらとも	やや	そう思う	合計	NA
	思わない 思わない いえない そう思う		てり忘り	- Tail	IVA			
A.政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、	度数	129	247	635	822	459	2292	8
恵まれない人への福祉を充実させるべきだ 有	有効%	5.6%	10.8%	27.7%	35.9%	20.0%	100%	
B.チャンスが平等に与えられるなら、	度数	176	268	769	785	290	2288	12
競争で貧富の差がついてもしかたがない 有	有効%	7.7%	11.7%	33.6%	34.3%	12.7%	100%	
C.競争の自由をまもるよりも、	度数	148	408	949	562	212	2279	21
格差をなくしていくことの方が大切だ	有効%	6.5%	17.9%	41.6%	24.7%	9.3%	100%	
D. 社会からなにかをしてもらうよりも	度数	84	198	1062	748	198	2290	10
社会のためになにかをしたい 有	有効%	3.7%	8.6%	46.4%	32.7%	8.6%	100%	
E.政治のことは難しすぎて	度数	283	496	735	584	191	2289	П
自分にはとても理解できない 有	有効%	12.4%	21.7%	32.1%	25.5%	8.3%	100%	
F.国会議員選挙のときに、私たち一般国民が投票	度数	276	398	541	710	366	2291	9
することは、国の政治に影響を及ぼしていると思う す	有効%	12.0%	17.4%	23.6%	31.0%	16.0%	100%	
G.私たち一般国民のデモや陳情、請願は、	度数	330	600	774	476	109	2289	11
国の政治に影響を及ぼしていると思う 有	有効%	14.4%	26.2%	33.8%	20.8%	4.8%	100%	
H. 私たち一般国民の意見や希望は、	度数	615	802	650	200	24	2291	9
国の政治に反映されていると思う 有	有効%	26.8%	35.0%	28.4%	8.7%	1.0%	100%	
I.政治のことはやりたい人に任せておけばよい	度数	725	631	641	232	63	2292	8
1.政治のことはイケルが人に任じておりはよい	有効%	31.6%	27.5%	28.0%	10.1%	2.7%	100%	
J. 一般的にいって、ほとんどの人は信頼できる	度数	389	610	915	338	37	2289	П
	有効%	17.0%	26.6%	40.0%	14.8%	1.6%	100%	
K.違った考え方をもった人がたくさんいる方が	度数	67	175	939	825	284	2290	10
社会にとって望ましい 有	有効%	2.9%	7.6%	41.0%	36.0%	12.4%	100%	
L. 近所の人たちは強いきずなで結ばれている	度数	502	610	863	282	38	2295	5
ここ近所の人たらは強いとすると和はれている	有効%	21.9%	26.6%	37.6%	12.3%	1.7%	100%	
M. 私の生き方は、おもに自分の考えで	度数	124	300	718	832	318	2292	8
自由に決められる	有効%	5.4%	13.1%	31.3%	36.3%	13.9%	100%	

表5はA~Mまでのそれぞれの意見に対してそう思うからそう思わないまでの5段階で回答を求めることで、回答者の価値観や社会意識を明らかにしている。A~C の社会の格差に対する意識では、福祉の充実に賛成を示す人が多い一方で、Bでは格差の存在を比較的許容する回答が多いという結果が得られており、Cではまた格差をなくしていくことを比較的重視する人も一定数みられるという複雑な結果が得られているため、社会経済的地位や政治的態度、ライフスタイルとの関係性についての分析が必要であることが示唆される。E~I の政治的有効性感覚に関わる項目では、「そう思わない」という回答がほかの項目に比べて多く、多くの人が政治との距離を感じていることが示されている。また、Lの居住地域における絆を示す集合的効力感に関わる項目は多くの人が「そう思わない」「ややそう思わない」と回答していることから、近所の人とのかかわりが少なくなっていることが改めて示された。

次に表 6 では具体的な対象に対する信頼感の分布を示している。政治家への信頼感は群を抜いて低い水準にとどまっており、先ほどの政治的有効性感覚の低さと併せて、現代日本社会において広く政治に対する不信が広まっていることが改めて示される結果となった。詳しい分析を行うことで、こうした政治不信がどのような社会経済的地位や、どのようなライフスタイルを示す人々の中で特に強いのかを明らかにしていく必要がある。また、マスメディアや中央官庁に対する信頼感も比較的低いという結果が得られており、権威・権力に対する不信は強いものがあると見るべきだろう。

表 6. 信頼感の分布

		まったく	あまり	どちら	ある程度	とても		
		信頼して	信頼して	とも	信頼し	信頼し	合計	NA
		いない	いない	いえない	ている	ている		
A.マスメディア	度数	172	576	610	909	25	2292	8
(新聞・テレビなど)	有効%	7.5%	25.1%	26.6%	39.7%	1.1%	100%	
B.中央官庁	度数	135	513	1029	573	32	2282	18
D. 千久百万	有効%	5.9%	22.5%	45.1%	25.1%	1.4%	100%	
C.地方自治体	度数	97	365	879	898	50	2289	Ш
C. 地方自治体	有効%	4.2%	15.9%	38.4%	39.2%	2.2%	100%	
D.政治家	度数	491	887	731	176	8	2293	7
0.政冶家	有効%	21.4%	38.7%	31.9%	7.7%	0.3%	100%	
 E.学校	度数	75	341	842	967	63	2288	12
	有効%	3.3%	14.9%	36.8%	42.3%	2.8%	100%	
F. 学者・研究者	度数	40	177	904	1051	114	2286	14
1.于省 划允省	有効%	1.7%	7.7%	39.5%	46.0%	5.0%	100%	
G.近所の人	度数	93	273	1067	803	52	2288	12
G. 虹州の人	有効%	4.1%	11.9%	46.6%	35.1%	2.3%	100%	
H. 個人的な	度数	20	52	329	1354	535	2290	10
友人、知人	有効%	0.9%	2.3%	14.4%	59.1%	23.4%	100%	
I.自分と異なる	度数	207	365	1439	265	13	2289	П
宗教の人	有効%	9.0%	15.9%	62.9%	11.6%	0.6%	100%	
J.自分と異なる	度数	120	292	1498	360	18	2288	12
国籍の人	有効%	5.2%	12.8%	65.5%	15.7%	0.8%	100%	

表 7. 政党・国家への選好度の分布

		とても強	い反感							۲-	ても強い	`好感		
		0	- 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	NA
A. 自民党	度数	147	93	107	241	209	857	291	169	102	15	21	2252	48
A. 日氏兄	有効%	6.5%	4.1%	4.8%	10.7%	9.3%	38.1%	12.9%	7.5%	4.5%	0.7%	0.9%	100%	
B. 立憲民主党	度数	163	96	152	292	320	999	123	52	23	7	6	2233	67
D. 业惠氏主兄	有効%	7.3%	4.3%	6.8%	13.1%	14.3%	44.7%	5.5%	2.3%	1.0%	0.3%	0.3%	100%	
C. 日本維新の会	度数	115	76	113	227	277	1005	220	125	54	15	13	2240	60
0.日本雁利の云	有効%	5.1%	3.4%	5.0%	10.1%	12.4%	44.9%	9.8%	5.6%	2.4%	0.7%	0.6%	100%	
D. 公明党	度数	281	136	172	324	331	798	99	40	26	6	17	2230	70
0.公明兄	有効%	12.6%	6.1%	7.7%	14.5%	14.8%	35.8%	4.4%	1.8%	1.2%	0.3%	0.8%	100%	
 E.共産党	度数	297	165	219	357	287	769	73	40	17	- 11	7	2242	58
亡, 六连兄	有効%	13.2%	7.4%	9.8%	15.9%	12.8%	34.3%	3.3%	1.8%	0.8%	0.5%	0.3%	100%	
F. 国民民主党	度数	147	105	179	336	338	959	86	46	16	10	8	2230	70
「. 国民民王兄	有効%	6.6%	4.7%	8.0%	15.1%	15.2%	43.0%	3.9%	2.1%	0.7%	0.4%	0.4%	100%	
G.れいわ新選組	度数	339	172	229	317	284	731	75	39	28	4	13	2231	69
G. 化代列机送阻	有効%	15.2%	7.7%	10.3%	14.2%	12.7%	32.8%	3.4%	1.7%	1.3%	0.2%	0.6%	100%	
	度数	264	153	201	336	320	842	59	26	12	4	6	2223	77
口. 社民兄	有効%	11.9%	6.9%	9.0%	15.1%	14.4%	37.9%	2.7%	1.2%	0.5%	0.2%	0.3%	100%	
I.NHK党	度数	693	285	252	252	198	467	40	21	- 11	3	16	2238	62
I.NHK克	有効%	31.0%	12.7%	11.3%	11.3%	8.8%	20.9%	1.8%	0.9%	0.5%	0.1%	0.7%	100%	
	度数	347	203	217	326	236	787	37	20	8	2	- 11	2194	106
J. 参以兄	有効%	15.8%	9.3%	9.9%	14.9%	10.8%	35.9%	1.7%	0.9%	0.4%	0.1%	0.5%	100%	
 K. 日本	度数	89	47	61	151	130	763	228	291	249	100	138	2247	53
N. 日本	有効%	4.0%	2.1%	2.7%	6.7%	5.8%	34.0%	10.1%	13.0%	11.1%	4.5%	6.1%	100%	
L.アメリカ合衆国	度数	48	37	56	166	227	921	295	257	148	40	39	2234	66
L.アメリル合派国	有効%	2.1%	1.7%	2.5%	7.4%	10.2%	41.2%	13.2%	11.5%	6.6%	1.8%	1.7%	100%	
M. 中国	度数	493	308	330	400	264	373	42	23	12	2	5	2252	48
M. 平酉	有効%	21.9%	13.7%	14.7%	17.8%	11.7%	16.6%	1.9%	1.0%	0.5%	0.1%	0.2%	100%	
N AFT	度数	303	201	242	396	321	569	106	55	33	5	12	2243	57
N.韓国	有効%	13.5%	9.0%	10.8%	17.7%	14.3%	25.4%	4.7%	2.5%	1.5%	0.2%	0.5%	100%	
	度数	952	360	284	270	102	251	8	6	9	3	7	2252	48
O.ロシア連邦	有効%	42.3%	16.0%	12.6%	12.0%	4.5%	11.1%	0.4%	0.3%	0.4%	0.1%	0.3%	100%	

表 7 で示したのは国政政党および日本と近隣国家や関連の深い国家に対する選好度である。0~10 の得点で数字が大きいほど好感を持っていることを示しており、政党で言えば政権与党である自民党は比較的好感度が高く、次いで日本維新の会の好感度が高いことがわかる。一方で、公明党、共産党、れいわ新選組、社民党、NHK党(当時の名前)、参政党に対しては強い反感を示す回答が比較的多く寄せられた。国家では日本とアメリカ位に対する好感度は比較的高い一方で、中国と韓国に対する好感度は比較的低く、ロシアに対する好感度は圧倒的な低さだった。これはロシアによるウクライナ侵攻を反映したものと思われる。

表 8. 日常的文化活動頻度の分布

		この数年	数年に	年に一回	月に一回	週に		
		はして	一回	から数回	から数回	一回以上	合計	NA
		いない	くらい					
A.スポーツをする	度数	792	201	395	446	436	2270	30
A.A. 72 9 3	有効%	34.9%	8.9%	17.4%	19.6%	19.2%	100%	
B.カラオケ	度数	1265	377	485	128	21	2276	24
ボウリング	有効%	55.6%	16.6%	21.3%	5.6%	0.9%	100%	
C.小説や歴史の	度数	731	364	574	332	271	2272	28
本を読む	有効%	32.2%	16.0%	25.3%	14.6%	11.9%	100%	
D.スポーツ新聞	度数	985	298	535	287	165	2270	30
女性週刊誌をよむ	有効%	43.4%	13.1%	23.6%	12.6%	7.3%	100%	
E.宝くじを買う	度数	1247	337	529	124	38	2275	25
L.玉くしと貝 /	有効%	54.8%	14.8%	23.3%	5.5%	1.7%	100%	
F.パチンコ、麻雀、	度数	1781	95	146	165	77	2264	36
ギャンブルをする	有効%	78.7%	4.2%	6.4%	7.3%	3.4%	100%	
G.図書館に行く	度数	1308	258	400	243	68	2277	23
0. 四百的气11、	有効%	57.4%	11.3%	17.6%	10.7%	3.0%	100%	

表 8 で示したのはスポーツやカラオケ、図書館に行くなどの比較的日常的な文化活動の頻度である。ただ、コロナ禍の影響もあるのか、この数年はしていないという人が多くみられる結果となった。その中では比較的頻度の高いのは A のスポーツをするという項目で、20%近い人が週に1回以上の頻度で習慣的に運動をしていることを示していた。

表 9. 正統的文化活動頻度の分布

		今まて 一度も したこと がない	この数年 はして いない	数年に 一回 くらい	年に一回 から数回	月に 一回 以上	合計	NA
A.美術館や	度数	265	954	483	533	43	2278	22
博物館に行く	有効%	11.6%	41.9%	21.2%	23.4%	1.9%	100%	
B.劇やミュージカルを	度数	156	705	452	871	95	2279	21
みる、映画館へ行く	有効%	6.8%	30.9%	19.8%	38.2%	4.2%	100%	
C.クラシックの音楽会	度数	1146	774	230	121	7	2278	22
オペラ、バレエに行く	有効%	50.3%	34.0%	10.1%	5.3%	0.3%	100%	

表 10. 社会活動頻度の分布

		したこと	めったに	ときどき	よく	いつも	合計	NA
		がない	しない	している	している	している	百司	INA
A. 国政選挙や自治体	度数	103	234	419	448	1075	2279	21
選挙の際の投票	有効%	4.5%	10.3%	18.4%	19.7%	47.2%	100%	
B.市民運動への参加	度数	1287	676	238	58	19	2278	22
D.中民建動への参加	有効%	56.5%	29.7%	10.4%	2.5%	0.8%	100%	
C.ボランティア、NPO	度数	1099	796	265	68	50	2278	22
NGO活動への参加	有効%	48.2%	34.9%	11.6%	3.0%	2.2%	100%	
D.募金や寄付	度数	208	788	1036	168	80	2280	20
D. 夯立\ 可门	有効%	9.1%	34.6%	45.4%	7.4%	3.5%	100%	

表 9 は美術館や博物館に行くことをはじめとした正統的とされる文化活動の頻度を示したものである。C のクラシックの音楽会やオペラ、バレエに関しては今まで一度も行ったことがない人が過半数を占めており、日本社会において今もあまり大衆化していない文化であることが示されている。

表 10 で示したのは政治参加やボランティアといった社会活動に参加する頻度である。選挙での投票については多くの人が比較的高頻度で行っているが、市民運動やボランティア活動、NPO、NGO 団体の活動への参加は「したことがない」と答える人が多く、日本においてこうした市民活動が根付いていないことを示している。

表 11. 嗜好品の摂取頻度の分布

		全く	めったに	あまり	どちら	時々	よく	とても		
		利用	利用	利用	とも	利用	利用	よく	合計	NIA
		しない	しない	しない	いえない	する	する	利用する	百百	NA
A. レギュラーコーヒー	度数	209	129	136	48	384	492	880	2278	22
A. D4 4 7 3 C	有効%	9.2%	5.7%	6.0%	2.1%	16.9%	21.6%	38.6%	100%	
B.缶コーヒー	度数	455	473	275	49	493	258	274	2277	23
<u>-</u>	有効%	20.0%	20.8%	12.1%	2.2%	21.7%	11.3%	12.0%	100%	
C. 日本茶	度数	56	97	157	94	555	597	725	2281	19
	有効%	2.5%	4.3%	6.9%	4.1%	24.3%	26.2%	31.8%	100%	
D. 紅茶	度数	196	261	301	125	700	372	315	2270	30
D. 紅朱	有効%	8.6%	11.5%	13.3%	5.5%	30.8%	16.4%	13.9%	100%	
E.ビール・発泡酒	度数	604	294	166	64	399	269	485	2281	19
こ.こ ル・光心冶	有効%	26.5%	12.9%	7.3%	2.8%	17.5%	11.8%	21.3%	100%	
F.ワイン	度数	736	439	270	97	451	157	129	2279	21
スパークリングワイン	有効%	32.3%	19.3%	11.8%	4.3%	19.8%	6.9%	5.7%	100%	
G. 日本酒	度数	859	438	278	91	381	128	106	2281	19
9. 日本冶	有効%	37.7%	19.2%	12.2%	4.0%	16.7%	5.6%	4.6%	100%	
 H.焼酎	度数	992	339	224	80	282	159	203	2279	21
11. 死的	有効%	43.5%	14.9%	9.8%	3.5%	12.4%	7.0%	8.9%	100%	
 I.たばこ	度数	1739	38	20	18	36	103	327	2281	19
1./~/&~	有効%	76.2%	1.7%	0.9%	0.8%	1.6%	4.5%	14.3%	100%	

表 II で示したのはコーヒー、茶、酒、たばこの四大嗜好品の摂取頻度である。「とてもよく利用する」から「全く利用しない」までの7段階で回答を求めており、レギュラーコーヒーや日本茶は総じて利用頻度が高い一方で、ワイン、日本酒、焼酎は利用頻度が低い傾向が

見られた。また、たばこは全く利用しない人が圧倒的多数で、近年の喫煙率の低下が如実に示されている。ビールは「全く利用しない」人と「とてもよく利用する」人がともに 20%を超えるという様子で、回答の二極化が見られていた。

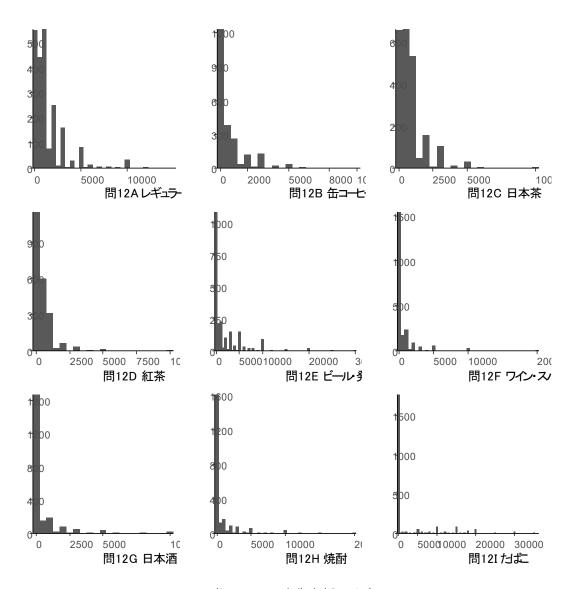


図 1. 嗜好品への消費金額の分布

図 I では嗜好品への消費金額の分布をヒストグラムで示している。ただし、どの嗜好品も、極端に消費金額が多い外れ値はヒストグラムからは除外している。酒類やたばこに関しては特に全く利用しない人も多いため、特に消費金額 0 円という人が多くなっており、どの嗜好品に関しても I か月あたり 5000 円以内という人がほとんどという結果になっている。なお、それぞれの平均値や中央値、標準偏差に関しては表 12 にまとめているが、どの種類においてもヒストグラムからもわかる通り、平均値と中央値が大きく異なっている。

表 12. 嗜好品への消費金額の基本統計量

	レギュラー コーヒー	缶 コーヒー	日本茶	紅茶	ビール 発泡酒	ワイン スパークリ ングワイン	日本酒	焼酎	たばこ
度数	2236	2244	2237	2211	2240	2221	2230	2236	2251
平均值	1424.11	719.45	902.21	496.06	2195.81	734.34	538.04	904.59	2593.27
中央値	1000	150	500	200	300	0	0	0	0
標準偏差	2288.98	1328.67	1482.80	1562.83	5314.71	2975.49	1780.54	3755.38	6133.29
最小值	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最大值	60000	20000	30000	50000	100000	100000	30000	100000	50000

表 13. 嗜好品摂取習慣獲得のきっかけの分布

		お父	お母	両親以外	地域の	学校関係	職場関係	メデ		覚え	習慣的		
		さん	さん	の家族や	知人や	の知人	の知人	ィア	その他	てい	利用経	合計	NA
		370	370	親せき	友人	や友人	や友人	1)		ない	験なし		
A. レギュラーコーヒー	度数	159	311	198	92	110	275	87	151	588	304	2275	25
A. U4 4 7 3 C	有効%	7.0%	13.7%	8.7%	4.0%	4.8%	12.1%	3.8%	6.6%	25.8%	13.4%	100%	
B.缶コーヒー	度数	131	73	73	108	117	247	163	138	562	658	2270	30
В.ш. С	有効%	5.8%	3.2%	3.2%	4.8%	5.2%	10.9%	7.2%	6.1%	24.8%	29.0%	100%	
C. 日本茶	度数	140	912	250	32	32	57	72	115	490	172	2272	28
C. 日本宗	有効%	6.2%	40.1%	11.0%	1.4%	1.4%	2.5%	3.2%	5.1%	21.6%	7.6%	100%	
D. 紅茶	度数	27	444	203	118	114	113	122	145	538	433	2257	43
0. 紅朱	有効%	1.2%	19.7%	9.0%	5.2%	5.1%	5.0%	5.4%	6.4%	23.8%	19.2%	100%	
E.ビール・発泡酒	度数	357	49	107	168	239	302	59	85	237	670	2273	27
	有効%	15.7%	2.2%	4.7%	7.4%	10.5%	13.3%	2.6%	3.7%	10.4%	29.5%	100%	
F.ワイン	度数	115	57	113	153	188	268	69	97	251	956	2267	33
スパークリングワイン	有効%	5.1%	2.5%	5.0%	6.7%	8.3%	11.8%	3.0%	4.3%	11.1%	42.2%	100%	
G. 日本酒	度数	274	31	91	143	147	263	36	71	226	991	2273	27
G. 日本/自	有効%	12.1%	1.4%	4.0%	6.3%	6.5%	11.6%	1.6%	3.1%	9.9%	43.6%	100%	
H. 焼酎	度数	156	22	85	158	153	272	36	69	214	1107	2272	28
	有効%	6.9%	1.0%	3.7%	7.0%	6.7%	12.0%	1.6%	3.0%	9.4%	48.7%	100%	
I.たばこ	度数	133	21	25	139	231	119	24	74	156	1351	2273	27
1./514	有効%	5.9%	0.9%	1.1%	6.1%	10.2%	5.2%	1.1%	3.3%	6.9%	59.4%	100%	

表 13 で示したのは、各種嗜好品を摂取する習慣を身につけたきっかけを質問した結果である。コーヒーや茶の様な日常的で比較的小さいうちから嗜むことができる嗜好品に関してはきっかけを覚えていないことが多い。その一方で、摂取に年齢制限が設けられている酒やたばこにおいては父親もしくは、学校関係や職場関係の知人・友人をきっかけとして摂取し始めることが多いことが分かった。父親をきっかけとするものとは異なり、母親がきっかけとなるものは特に日本茶が顕著にみられる。これはそもそもの親世代の嗜好品摂取のジェンダー差も大きな影響を与えていると言えるだろう。

表 14 から先は回答者個人の属性や状態、社会経済的地位や家族に関するもの、そして出身家庭に関する項目が並んでいる。まず、表 14 で示しているのは本人の健康状態であり、健康状態が「わるい」という人はほとんど見られなかった。

表 14. 健康状態の分布

	度数	有効%
よい	237	10.5%
まあよい	534	23.7%
ふつう	1049	46.6%
あまりよくない	379	16.8%
わるい	53	2.4%
合計	2252	100%
NA	48	

表 15. 性別の分布

	度数	有効%
男性	1127	49.0%
女性	1173	51.0%
合計	2300	100%

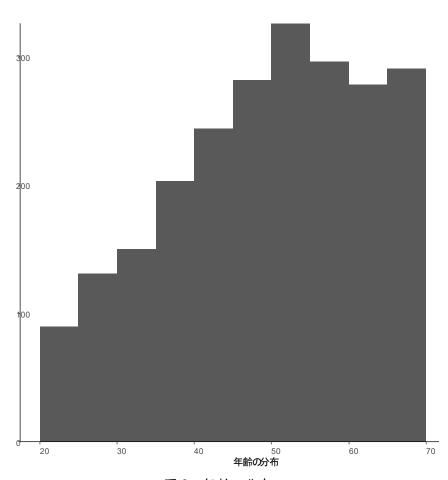


図2. 年齢の分布

表 15 では性別、図 2 では年齢の分布をそれぞれ示している。性別はほぼ国勢調査などによる男女比と変わらず、わずかに女性が多いという結果になっている。年齢に関しても人口比率に鑑みればある程度自然な偏りとなっているが、やや 20 代 30 代の回収率が悪い様子も見て取れる。なお平均年齢は 48.95 歳、標準偏差は 12.93 歳となっている。

表 16. 最終学歴の分布

	度数	有効%
中学校	68	3.0%
高校	728	31.8%
短大・高専	248	10.8%
各種専門学校	386	16.9%
大学(4年制)	735	32.1%
大学(6年制:医歯薬等)	17	0.7%
大学院(修士課程)	74	3.2%
大学院(博士課程)	26	1.1%
その他	5	0.2%
合計	2287	100%
NA	13	

表 17. 現職の従業上の地位の分布

	度数	有効%
経営者、役員	98	4.3%
常時雇用されている一般従業者	1034	45.2%
臨時雇用、パート、アルバイト	405	17.7%
派遣社員	40	1.7%
契約社員、嘱託	108	4.7%
自営業主、自由業者	153	6.7%
家族従業者	32	1.4%
内職	8	0.3%
専業主婦/主夫(仕事はしていない)	189	8.3%
無職(仕事を探している)	51	2.2%
無職(仕事を探していない)	128	5.6%
学生	36	1.6%
その他	8	0.3%
合計	2290	100%
NA	10	

表 16 は最終学歴で、高校卒と大学 (4 年生学部) 卒がともに 30%程度とともに多数派を占めている。表 17 は現在の職業における従業上の地位というもので、正規雇用か非正規雇用かといった職場における立場の違いを示している。回答結果からは 45%程度がいわゆる正社員であることがわかる。また、近年 2%台を推移している完全失業率に鑑みれば、失業者 (仕

事を探している無職者)が 2%程度であることは、この調査結果が妥当であることを示唆するものといえるだろう。

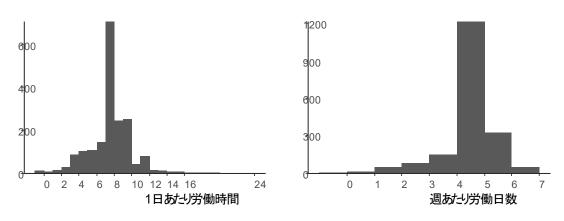


図 3. 労働時間・日数の分布

図 3 で示しているのは | 日あたりの労働時間及び週あたりの労働日数の分布である。正規雇用の人が半数近くを占めるため、労働時間は | 日 8 時間、労働日数は週 5 日が多数派となっている。なお、労働時間は平均が 8. | 時間、標準偏差が 2.6 時間となっており、労働日数は平均が 5.4 日、標準偏差は 4.2 日となっていた。この数値やグラフに、現在仕事をしていない人は含まれていない。これは以下の表 18,19、図 4 においても同様である。

	度数	有効%
人	71	3.9%
2~4人	116	6.3%
5~9人	156	8.5%
10~29人	204	11.1%
30~99人	352	19.2%
100~299人	243	13.3%
300~499人	121	6.6%
500~999人	176	9.6%
1000人以上	320	17.5%
官公庁	72	3.9%
合計	1831	100%
NA・非該当	469	

表 18. 勤務先企業規模の分布

表 18 は勤務先の企業規模の分布を示している。30~99 人と、1000 人以上の大企業に比較的多くの人が偏っている。自分 | 人だけで仕事をしているという人はさほど多くはないことが分かった。

表 19. 現在の役職の分布

	度数	有効%
役職なし(主任以下)	1291	70.7%
監督、職長、班長、組長	86	4.7%
係長、係長相当職(主査など)	119	6.5%
課長、課長相当職	110	6.0%
部長、部長相当職	78	4.3%
社長、重役、役員、理事	130	7.1%
その他	13	0.7%
合計	1827	100%
NA・非該当	473	

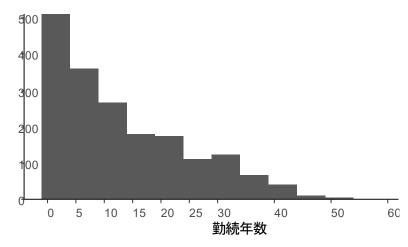


図 4. 勤続年数の分布

表 19 は現在ついている役職の分布である。役職無しが圧倒的に多く、70%超を占めている。そして図 4 は勤続年数の分布を示している。義務教育終了前から就労することはないので、当然勤続年数が年齢を超えることはなく、勤続年数が長くなるにしたがって該当者が減るという単調減少の分布を示している。平均値は 13.4 年、標準偏差は 11.4 年である。

次に表 20 で示すのは、現職ではなく初職、つまり学卒後初めてついた仕事における従業上の地位である。こちらも圧倒的多数がいわゆる正規雇用であり、その割合は 78%にのぼる。その他に 10%強の人が初職は臨時雇用、パート、アルバイトであったと回答しているが、それ以外の回答を選ぶ人は極めて少なかった。

その次の表 2I は初職での勤め先の企業規模である。これについては現職とそれほど分布に大きな違いはないが、やはり初職から自分一人だけで仕事をしていたという人はかなり少なく、全体の 0.6%に過ぎなかった。

表 20. 初職での従業上の地位の分布

経営者、役員8 0.4%常時雇用されている一般従業者1758 78.0%臨時雇用、パート、アルバイト285 12.6%派遣社員24 1.1%契約社員、嘱託48 2.1%自営業主、自由業者47 2.1%家族従業者36 1.6%まだ学校を卒業していない29 1.3%仕事についたことがない12 0.5%その他8 0.4%合計2255 100%NA45		度数	有効%
臨時雇用、パート、アルバイト28512.6%派遣社員241.1%契約社員、嘱託482.1%自営業主、自由業者472.1%家族従業者361.6%まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	経営者、役員	8	0.4%
派遣社員241.1%契約社員、嘱託482.1%自営業主、自由業者472.1%家族従業者361.6%まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	常時雇用されている一般従業者	1758	78.0%
契約社員、嘱託482.1%自営業主、自由業者472.1%家族従業者361.6%まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	臨時雇用、パート、アルバイト	285	12.6%
自営業主、自由業者472.1%家族従業者361.6%まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	派遣社員	24	1.1%
家族従業者361.6%まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	契約社員、嘱託	48	2.1%
まだ学校を卒業していない291.3%仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	自営業主、自由業者	47	2.1%
仕事についたことがない120.5%その他80.4%合計2255100%	家族従業者	36	1.6%
その他80.4%合計2255100%	まだ学校を卒業していない	29	1.3%
合計 2255 100%	仕事についたことがない	12	0.5%
	その他	8	0.4%
NA 45	合計	2255	100%
	NA	45	

表 21. 初職先の企業規模の分布

	度数	有効%
人	13	0.6%
2~4人	67	3.1%
5~9人	189	8.8%
10~29人	221	10.3%
30~99人	405	18.8%
100~299人	286	13.3%
300~499人	171	7.9%
500~999人	210	9.7%
1000人以上	500	23.2%
官公庁	92	4.3%
合計	2154	100%
NA	146	

次は家族に関する項目で、表 22 で示すのは婚姻状態である。既婚者が 60%以上と多数を 占めており、60 代までを対象とした調査のため死別者は少ない。

表 22. 婚姻状態の分布

	度数	有効%
未婚	595	26.3%
既婚	1430	63.2%
離別	198	8.7%
死別	40	1.8%
合計	2263	100%
NA	37	

表 23. 子ども数の分布

	度数	有効%
いない	836	37.0%
1人いる	337	14.9%
2人いる	732	32.4%
3人いる	296	13.1%
4人以上いる	58	2.6%
合計	2259	100%
NA	41	

表 24. ライフステージの分布

	度数	有効%
子どもは小学校入学前	264	18.6%
子どもは小・中学生	272	19.2%
子どもは高校生以上の学生	210	14.8%
子どもはすでに学校教育を終えた	671	47.4%
合計	1417	100%
NA·非該当	883	

表 25. 同居家族人数の分布

	度数	有効%
人暮らし	311	13.7%
2人	642	28.4%
3人	600	26.5%
4人	442	19.5%
5人	167	7.4%
6人	61	2.7%
7人	24	1.1%
8人	- 11	0.5%
9人以上	4	0.2%
合計	2262	100%
NA	38	

表 23~25 も家族に関わる項目で、順番に子どもの数とライフステージ(末子の就学状況から子育ての段階を測る)、そして同居家族の人数である。子どもはいないという人と 2 人いるという人がそれぞれ 30%超と比較的多い。また表 24 のライフステージは子どもがいる人のみに回答を求めており、そのうち半数近くの人がすでに子育ての段階を終えていることが明らかになった。これは年齢の分布に鑑みれば十分に理解可能な結果だろう。同居家族については 2 人ないしは 3 人暮らしが最も多く、次いで | 人暮らしと 4 人暮らしが | 10%台と比較的多かった。このパターン以外(5 人以上)は合わせても | 10%程度と少なかった。

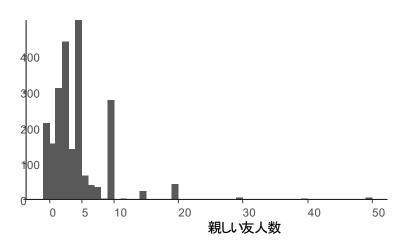


図5. 親しい友人数の分布

図5に示した親しい友人数の分布については10人以下の回答が多数を占めている。なお上記の図を作成するにあたって、100人以上の外れ値2名は除外して作成している。平均値は4.8人、標準偏差は7.9人である。

表 26. 居住形態の分布

	度数	有効%
持ち家(一戸建て)	1383	61.1%
持ち家(分譲マンション)	259	11.4%
借家(一戸建て)	74	3.3%
賃貸のアパート、マンション	489	21.6%
社宅、寮、官舎	38	1.7%
その他	22	1.0%
合計	2265	100%
NA	35	

表 26 に示したのは居住形態である。60%異常が一戸建ての持ち家であると回答しており、 地方を中心にやはり戸建ての住宅に居住している人が多いことが分かった。その一方で賃 貸の場合はアパート、マンションが 20%超と多かった。

次の図 6 に示すのは現在住んでいる市区町村での合計居住年数である。これも勤続年数と似て、年齢を超える居住年数は論理的にあり得ないため、居住年数が短い人が多く、長い人は短いという単調減少の様な傾向を示す。平均値は 22.4 年、標準偏差は 17.2 年となっている。

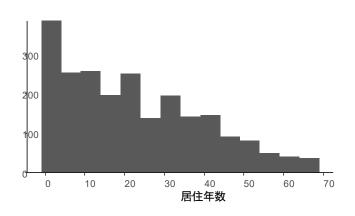


図 6. 居住年数の分布

次に示すのは出身家庭に関わる内容である。まず表 27 で示すのは父親の学歴である。本人学歴に比べてやや低めの学歴になっており、日本社会のこれまでの高学歴化が見て取れる。また、親の学歴項目で特徴的なのは「わからない」という回答が一定数みられることである。父学歴においても 15%近くの人が「わからない」と回答している。

表 27. 父親の最終学歴の分布

	度数	有効%
中学校	329	14.8%
高校	689	31.0%
専門学校	50	2.3%
短大・高専	30	1.4%
大学(4年制)	464	20.9%
大学(6年制)	9	0.4%
大学院(修士)	10	0.5%
大学院(博士)	7	0.3%
旧制尋常小学校	116	5.2%
旧制高等小学校	36	1.6%
旧制中学校・高等女学校	76	3.4%
実業学校	7	0.3%
師範学校	5	0.2%
旧制高校・専門学校・高等師範学校	41	1.8%
旧制大学	17	0.8%
その他	10	0.5%
わからない	325	14.6%
合計	2221	100%
NA	79	

表 28. 母親の最終学歴の分布

	度数	有効%
中学校	333	15.0%
高校	820	36.8%
専門学校	138	6.2%
短大・高専	169	7.6%
大学(4年制)	153	6.9%
大学(6年制)	3	0.1%
大学院(博士)	- 1	0.0%
旧制尋常小学校	92	4.1%
旧制高等小学校	34	1.5%
旧制中学校・高等女学校	130	5.8%
実業学校	6	0.3%
師範学校	5	0.2%
旧制高校・専門学校・高等師範学校	31	1.4%
旧制大学	1	0.0%
その他	6	0.3%
わからない	305	13.7%
合計	2227	100%
NA	73	

表 28 は母学歴の分布である。父学歴と比べて顕著なのは、大卒層の少なさ(10%に満たない)である。ここ数十年の日本社会の高学歴化において、それは特に女性の大学進学率の上昇という点で極めて顕著であったことがわかる。

表 29. 本人 15 歳時の父職、従業上の地位の分布

	度数	有効%
経営者、役員	191	8.5%
常時雇用されている一般従業者	1338	59.6%
臨時雇用、パート、アルバイト	19	0.8%
派遣社員	5	0.2%
契約社員、嘱託	23	1.0%
自営業主、自由業者	521	23.2%
家族従業者	14	0.6%
内職	- 1	0.0%
専業主夫(仕事は全くしていなかった)	2	0.1%
無職	16	0.7%
学生	2	0.1%
その他	15	0.7%
当時、父はいなかった	98	4.4%
合計	2245	100%
NA	55	

表 30. 本人 15 歳時の母職、従業上の地位の分布

	度数	有効%
経営者、役員	48	2.1%
常時雇用されている一般従業者	464	20.6%
臨時雇用、パート、アルバイト	661	29.3%
派遣社員	5	0.2%
契約社員、嘱託	23	1.0%
自営業主、自由業者	236	10.5%
家族従業者	177	7.8%
内職	70	3.1%
専業主婦(仕事は全くしていなかった)	456	20.2%
無職	66	2.9%
学生	2	0.1%
その他	7	0.3%
当時、母はいなかった	42	1.9%
合計	2257	100%
NA	43	

表の 29,30 は両親それぞれの職業に関する質問である。回答者本人が 15 歳だったときの両親の (主な) 仕事における従業上の地位を質問している。父親の職業として特徴的なのは自営業の多さだろう。本人の年齢が 69 歳まで含まれていることに鑑みれば、この自営業には一定程度のボリュームで農業が含まれていることだろう。そして母職に関して特徴的なのは専業主婦の多さである。本人の従業上の地位では 8%程度だったのに対して母職では 20% を超えている。ここにも、この数十年の日本社会の変化が見て取れるだろう。

表 31. 個人年収の分布

	度数	有効%
なし	126	5.6%
I 万円以上、200万円未満	652	28.8%
200万円以上、400万円未満	637	28.2%
400万円以上、600万円未満	427	18.9%
600万円以上、800万円未満	224	9.9%
800万円以上、1000万円未満	101	4.5%
1000万円以上、1500万円未満	62	2.7%
1500万円以上	33	1.5%
合計	2262	100%
NA	38	

表 31 は昨年 | 年での個人の年収を聞いたものである。仕事に就いていないなどの理由で「なし」という回答も 5%存在するが、多いのは収入はあるが 400 万円までという回答である。

表 32. 世帯年収の分布

	度数	有効%
I 万円以上、200万円未満	137	6.1%
200万円以上、400万円未満	410	18.1%
400万円以上、600万円未満	528	23.4%
600万円以上、800万円未満	400	17.7%
800万円以上、1000万円未満	272	12.0%
1000万円以上、1500万円未満	223	9.9%
1500万円以上	103	4.6%
わからない	186	8.2%
合計	2259	100%
NA	41	

次の表 32 は世帯年収である。本に二外の家族の収入が含まれるため個人の収入よりは多くなる。結果として 400~600万円の回答が最も多く、23%を占めているが、その前後の回答も比較的多い。そして、自分以外の家族の収入を把握していないことにより「わからない」という回答が 8%程あらわれている。

表 33. 地域ブロックの分布

	度数	有効%
北海道	95	4.1%
東北	166	7.2%
関東	806	35.0%
中部	423	18.4%
近畿	357	15.5%
中国	136	5.9%
四国	71	3.1%
九州・沖縄	246	10.7%
合計	2300	100%

表 34. 都市規模の分布

	度数	有効%
政令市、特別区	666	29.0%
15万人以上市	696	30.3%
15万未満市	717	31.2%
町村	221	9.6%
合計	2300	100%

最後に表 33,34 は本人の居住地情報であるが、調査地点のサンプリングを人口分布に割り付けているので、関東を中心に都市部が多い結果になっている。

6400670

「ライフスタイルと社会意識に関する調査」

この調査は、政治や社会に対する価値観、及び社会経済的地位と、嗜好品などの飲食や余暇といったライフスタイルやそのようなライフスタイルの形成メカニズムとの関係性を明らかにするために、全国で実施される標本調査です。収集されたデータはその後、高度な統計解析にかけられます。これによって、日本社会における、社会経済的地位、政治などの価値観、ライフスタイルの関係性を明らかにし、ライフスタイルの獲得を通じて地位や価値観が継承されていくメカニズムについて検討したいと考えています。

お答えいただいた内容は、すべて数字としてまとめますので、どなたがどのようなお答えを なさったかが知られるようなことは一切ございません。

お忙しいところ、こまかい内容で恐れ入りますが、この調査にご協力をお願いいたします。

記入にあたってのお願い

- ☆ この調査にご協力いただくのは、 封筒のあて名のご本人様 です。 ご自身のお考えを記入してください。
- ★ この調査票の質問にしたがって、回答欄のあてはまる番号に○をつけてください。 回答は「**Oは1つ」**のものと、「具体的な数値を記入する」ものがあります。 「その他(具体的に:)」にあてはまる場合は、お手数ですが○のほかに その内容を具体的にご記入ください。
- ☆ 問1から順番にお答えください。一部の方だけにお答えいただく質問もありますが、 その場合は【 】で示してあります。
- ☆ 聞き慣れない言葉が出てきたときは、わかる範囲でお答えください。
- ☆ ご回答に迷われる場合は、できるだけ近いものを選ぶようにしてください。 どうしても答えられない質問がありましたら、そのまま次の質問へお進みください。
- ☆ 記入は黒または青色の鉛筆・ペン・ボールペンでお願いいたします。
- ☆ お時間のあるときに少しずつ記入していただいてもかまいませんので、最後の質問まで ご回答のほど、よろしくお願いいたします。

ご記入いただきました調査票は、**1月20日(金)**までにご投函をお願いいたします。 御礼として**QUOカード(1,000円分)**とボールペンを同封しております。

2023年1月

【調査実施主体】公益財団法人たばこ総合研究センター

【調査委託機関】株式会社日本リサーチセンター フリーダイヤル 0120-925-394 (平日 10 時~12 時/13 時~17 時)





ご回答は封筒のあて名の<u>ご本人様</u>にお願いいたします。

最初に、あなたの普段のくらしや意見についてお聞きします。

間1. 「とても幸せ」を 10、「とても不幸」を 0 とすると、現在あなたは<u>どれくらい「幸せ」</u>だと思いますか。(○はひとつ)

とても	不幸←								→とて	も幸せ	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

間2. かりに現在の日本の社会全体を、下記のように、「上」を 10、「下」を 0 とする 11 の層に分けると すれば、「現在のあなた自身」はどれに入ると思いますか。(○はひとつ)

下←					→上
0 1	2 3	4 5	6 7	8	9 10

間3. では「とても満足」が 10、「とても不満」が 0 とすると、以下のAからGについて、あなた自身は、 <u>どれくらい「満足」</u>していますか。(\bigcirc はそれぞれひとつ)

			とて: 不満	とても 不満 ← 満足								非該当		
A.	生活全般 -	↓	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
В.	自分の友人関係	\	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
C.	自分の仕事内容 -	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	仕事をしていない 88
D.	現在の居住地域	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
E.	自分の収入(収入 が無い場合も)	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
F.	家庭全体の収入	↓	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
G.	自分の趣味、余暇 の過ごし方	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

問4. あなたはAからEのような人びとが、<u>近所に増えることについて賛成ですか、それとも反対</u>ですか。あてはまるものをお選びください。(\bigcirc はそれぞれひとつ)

	賛成			どちらかと いえば反対	反対
A. 人種の異なる人々 -	5	4	3	2	1
B. 移民や外国人労働者 -	5	4	3	2	1
C. 宗教の異なる人々 -	5	4	3	2	1
D. 同性カップル -	5	4	3	2	1
E. ふだんから外国語を話す人々 -	5	4	3	2	1

問5. あなたは、次のような意見について、どう思いますか。 それぞれもっともあてはまるものを <math>1 つお 選びください。 (\bigcirc はそれぞれひとつ)

		そう思う	そう思う	いえない	思わない	思わない
A. 政府は豊かな人からの税金を増やしてでも、 恵まれない人への福祉を充実させるべきだ	→	5	4	3	2	1
B. 競争で貧富の差がついてもしかたがない	→	5	4	3	2	1
C. 競争の自由をまもるよりも、 格差をなくしていくことの方が大切だ	\rightarrow	5	4	3	2	1
D. 社会からなにかをしてもらうよりも 社会のためになにかをしたい	→	5	4	3	2	1
E. 政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない	\rightarrow	5	4	3	2	1
F. 国会議員選挙のときに、私たち一般国民が投票することは、 国の政治に影響を及ぼしていると思う	\rightarrow	5	4	3	2	1
G. 私たち一般国民のデモや陳情、請願は、 国の政治に影響を及ぼしていると思う	\rightarrow	5	4	3	2	1
H. 私たち一般国民の意見や希望は、 国の政治に反映されていると思う	\rightarrow	5	4	3	2	1
I. 政治のことはやりたい人に任せておけばよい	\rightarrow	5	4	3	2	1
J. 一般的にいって、ほとんどの人は信頼できる	\rightarrow	5	4	3	2	1
K. 違った考えかたをもった人がたくさんいる方が 社会にとって望ましい	→	5	4	3	2	1
L. 近所の人たちは強いきずなで結ばれている	→	5	4	3	2	1
M. 私の生き方は、おもに自分の考えで自由に決められる	→	5	4	3	2	1

間6. Aから J のような組織や団体、個人を、あなたは**どの程度信頼**していますか。あてはまるものをお答えください。(○はそれぞれひとつ)

		とても信頼 している	ある程度 信頼している	どちらとも いえない		まったく信頼 していない
マスメディア A. (新聞・テレビなど)	→	5	4	3	2	1
B. 中央官庁	†	5	4	3	2	1
C. 地方自治体	→	5	4	3	2	1
D. 政治家	→	5	4	3	2	1
E. 学校	\rightarrow	5	4	3	2	1
F. 学者・研究者	→	5	4	3	2	1
G. 近所の人	\rightarrow	5	4	3	2	1
H. 個人的な友人、知人	\rightarrow	5	4	3	2	1
I. 自分と異なる宗教の人	→	5	4	3	2	1
J. 自分と異なる国籍の人	†	5	4	3	2	1

問7. あなたは次のような政党や国に対して<u>好意的な気持ちを持っていますか、それとも反感</u>を持っていますか。とても強い好感を持っている場合を 10、とても強い反感を持っている場合を 0 とすると、<u>現在のあなたのお気持ち</u>はどれにあたりますか。それぞれあてはまるものをお選びください。

(○はそれぞれひとつ)

			とて	も強い	ハ反感	ξ←				→	とても	強い	好感
Α.	自由民主党(自民党)	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
В.	立憲民主党	↓	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
C.	日本維新の会	\	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
D.	公明党	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
E.	日本共産党 (共産党)	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F.	国民民主党	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
G.	れいわ新選組	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Н.	社会民主党 (社民党)	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
I.	NHK 党	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
J.	参政党	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
K.	日本	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
L.	アメリカ合衆国	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
M.	中華人民共和国(中国)	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
N.	大韓民国 (韓国)	†	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
О.	ロシア連邦	→	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問8. あなたは、AからGのような<u>活動</u>をふだんどの程度していますか。(○はそれぞれひとつ)

				から数回		女年に一回	していない
A.	スポーツをする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	→	5	4	3	2	1
В.	カラオケ、ボウリング	→	5	4	3	2	1
C.	小説や歴史の本を読む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	\rightarrow	5	4	3	2	1
D.	スポーツ新聞、女性週刊誌をよむ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	→	5	4	3	2	1
E.	宝くじを買う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	\rightarrow	5	4	3	2	1
F.	パチンコ、麻雀、ギャンブル(競馬など)をする・	\rightarrow	5	4	3	2	1
G.	図書館に行く	\rightarrow	5	4	3	2	1

問9. では、 $A \sim C$ のような<u>活動</u>はいかがですか。(\bigcirc はそれぞれひとつ)

			月に一回以上	から数回年に一回	数年に一回	していない	今まで一度も
A.	美術館や博物館に行く	→	5	4	3	2	1
В.	劇やミュージカルをみる、映画館へ行く	→	5	4	3	2	1
C.	クラシックの音楽会、オペラ、バレエに行く	→	5	4	3	2	1

間10. あなたは、AからDのようなことを、 $\underline{\textit{Eo}}$ 程度Uていますか。あてはまるものをそれぞれお選びください。(Uはそれぞれひとつ)

			いつも している	よく している	ときどき している	めったに しない	したこと がない
Α.	国政選挙や自治体選挙の際の投票	\rightarrow	5	4	3	2	1
В.	市民運動への参加	→	5	4	3	2	1
C.	ボランティア、NPO、NGO 活動への参加	\rightarrow	5	4	3	2	1
D.	募金や寄付	\rightarrow	5	4	3	2	1

間11. それでは、あなたはAからIの $\underline{C$ 5 \underline{G} 6 、現在どの程度利用</u>していますか。それぞれもっともあてはまるものを1つお選びください。(○はそれぞれひとつ)

		よく利用するとても	よく利用する	時々利用する	いえないどちらとも	利用しない	利用しない	全く利用しない
A. レギュラーコーヒー	†	7	6	5	4	3	2	1
B. 缶コーヒー	†	7	6	5	4	3	2	1
C. 日本茶	→	7	6	5	4	3	2	1
D. 紅茶	→	7	6	5	4	3	2	1
E. ビール・発泡酒	†	7	6	5	4	3	2	1
F. ワイン・スパークリングワイン	→	7	6	5	4	3	2	1
G. 日本酒	→	7	6	5	4	3	2	1
H. 焼酎	→	7	6	5	4	3	2	1
I. たばこ	→	7	6	5	4	3	2	1

間12. あなたは現在AからIの $\underline{しこう品}$ に、平均して $\underline{1\,$ カ月でどれくらい}のお金を使っていますか。 ご家族全体の合計ではなく、**あなた個人が使う金額**をそれぞれお答えください。

全く使っていない場合は0円とお答えください。(数字を記入)

	万	千	百	+	_	
A. レギュラーコーヒー		 				円くらい
B. 缶コーヒー						円くらい
C. 日本茶		 	 		 	円くらい
D. 紅茶						円くらい
E. ビール・発泡酒	:	 	 - - -		 	円くらい
F. ワイン・スパークリングワイン						円くらい
G. 日本酒		 	 		 	円くらい
H. 焼酎						円くらい
I. たばこ		 	! ! !		 	円くらい

間13. あなたはAからIの $\underline{C$ 1のしこう品について、 \underline{C} 0ような人・モノをきっかけに習慣的に利用</u>するようになりましたか。

現在は<u>やめている場合でも、最初に利用するようになった時のことについて</u>お答えください。 **複数あてはまる場合は、それぞれもっとも強く影響を受けた人・モノを1つだけ**お答えください。

(○はそれぞれ**ひとつ**)

		お父さん	お母さん	家族や親せき両親以外の	友人地域の知人や	知人や友人学校関係の	人 や 友 係	などのメディア インターネット 来誌、	その他	覚えていない	したことがない 習慣的に利用
A. レギュラーコーヒー	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
B. 缶コーヒー	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
C. 日本茶	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
D. 紅茶	\rightarrow	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
E. ビール・発泡酒	\rightarrow	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F. ワイン・スパークリングワイン	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
G. 日本酒	→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
H. 焼酎	\rightarrow	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
I. たばこ	\rightarrow	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

ここから、あなたご自身のことについてうかがいます。

問14. あなたは、現在のご自分の<u>健康状態</u>をどう思いますか。(○はひとつ)

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. わるい

問15. 7	あなたの <u>性</u>	<u>:別</u> を、教え	えてください。	(○はひと	ာ)			
0.	男性	1. 女性						
問16. 7	あなたの <u>年</u> 歳	<u>齢</u> を、教え	えてください。	(数字を記)	入)			
	あなたが <u>最</u> 		<u>*学校</u> はどれ [*] 5 . 大学(4年		1 大学院(修	も含めます。 	***********	.)
					等) 8 . 大学院(博)
	あなたが現 Oはひとつ		ている <u>主なお</u> ſ	<u>‡事</u> は、大き	く分けてこの中	のどれにあた	りますか。	
2. 常印	時雇用、バ	している一般 でいる一般 パート、アル		10. 無聙	主婦/主夫(仕書 哉(仕事を探して 哉(仕事を探して	いる)	いない)	
6. 自言	的社員、嘱 営業主、自 族従業者			12. 学生 13. その	三)他(具体的に:)
問19 . ā 複類 派記	あなたの現 数の事業を 遣社員の方	性の主な <u>難</u> いとなんで いとなんで では、派遣ダ	助め先は、どの でいる場合は、 た企業につい	ような事業 最も中心的 てお答えくだ	へお進みください をいとなんでいる な事業について さい。 総合病院の運営	- ますか 。 具体的 お答えくださ	۱,°	
会社	社の事業で)小学校教	ではなく、 ま 数員、プラ	あなた自身が打 スチック製品	旦当している (おもちゃ)	ていますか。具 職務についてお の製造、人事部 ラミング、野菜の	答えください。 『で採用事務を	0	
3		1つについ		寺間外労働も	´か 。 含めてお答えく こうにご記入くた		どを記入)	
問22. 7								

1.	1人	3.	5~9人	5.	30~99 人	7	. 3	800~499 人	9. 1000 人以上
2.	2~4 人	4.	10~29 人	6.	100~299	人 8	. 5	500~999 人	10. 官公庁
問24	. あなたは (○はひと		の主なお仕事	で、イ	可か 役職 に	ついてい	ます	ナか。あてはまん	るものをお選びください。
1.	役職なし(主任以	(下)		5.	部長、部	長村	目当職	
2.	監督、職長	、班長	を、組長		6.	社長、重	役、	役員、理事	
3.	係長、係長	相当鵈	哉(主査など)		7.	その他(具包	本的に:)
4.	課長、課長	相当職	我						
問25	いた期間は		お答えくだる						。出向や休業、休職されて えください。(数字を記入)
_								こうかがいます。こあたりますか。	。 (Oは <u>ひとつ</u>)
1.	経営者、役	員			7.	家族従業者	土		
2.	常時雇用さ	れてい	いる一般従業	皆	8.	内職			
3.	臨時雇用、	パー	ト、アルバイ	 					
4.	派遣社員				9.	まだ学校を	~卒	業していない	
5.	契約社員、	嘱託			10.	仕事につ	いけ	たことがない	
6.	自営業主、	自由對	業者		11.	その他(具体	本的に:)
【問 26 で 1~8,11(仕事についたことがある方)にお伺いします。 9,10(仕事についたことがない)を選択した場合、問 30 へお進みください】 問27. あなたの最初のお勤め先はどのような事業をいとなんでいましたか。 具体的にお書きください。 複数の事業をいとなんでいた場合は、最も中心的な事業についてお答えください。 派遣社員だった方は、派遣先企業についてお答えください。 (例)食品の製造、衣料の卸売、不動産仲介業、総合病院の運営、書籍の出版、旅館経営など									
間28. あなたは <u>最初のお勤め先でどのような仕事をしていましたか</u> 。具体的にお書きください。 会社の事業ではなく、あなた自身が担当していた職務についてお答えください。 (例) 小学校教員、プラスチック製品(おもちゃ)の製造、人事部で採用事務を担当、 スーパーのレジ係、ソフトウェアのプログラミング、野菜の栽培など									

問23. あなたの現在の主な勤め先の<u>従業員</u>(働いている人)は、<u>会社全体で何人</u>ぐらいですか。

(支社の人数や、家族従業者、パート・アルバイトなども含む) (○はひとつ)

	3. 5~9人	5. 30~99 人	7. 300~499	八 9. 1000 八以上		
2. 2~4 人	4. 10~29 人	6. 100~299 人	8. 500~999	人 10. 官公庁		
【すべての方に】						
	ナ 妊娠していま	こナか、 なアはまる	こ ォ の ナ ナン配フドノ チ	ごさい。(○はひとつ)		
間30. めなたは場	出土、 <u>稲角</u> していま	こりか。 めてはまる)ものをね迭いく/	231° (Oktores)		
1. 未婚 (結婚し	たことがない)	3. 結婚して	いたが、離別して	て、現在結婚相手はいなり	`	
2. 結婚している	(事実婚も含む)	4. 結婚して	いたが、死別して	て、現在結婚相手はいなり	`	
問31 . あなたには <u>お子さま</u> がいらっしゃいますか(<u>同居の有無は問いません)</u> 。(○はひとつ)						
0. いない	1. 1人いる	2. 2人いる	3. 3人	いる 4.4人以.	上いる	
【お子さまがいる方	·[=]					
問32 . あなたの <u>お</u>	<u>:子さま</u> について拳	対えてください。				
2人以上い	らっしゃる場合は	t <u>一番年下のお子さ</u>	<u>ま</u> についてお答え	えください。(○はひとつ)	
1. 子どもは小学				上以上(学生)		
2. 子どもは小・	中学生	4	4. 子どもはすでに	こ学校教育を終えた		
なお、ペットは人数に含めないでください。(○はひとつ) 1. 1人(一人暮らし) 3. 3人 5. 5人 7. 7人 9. 9人 2. 2人 4. 4人 6. 6人 8. 8人 10. 10 人以上(具体的に: 人) 間34. あなたには、日ごろから付き合いのある親しい友人が何人くらいいますか。だいたいで結構ですのでお答えください。(数字を記入) 人くらい 【1. 1人(一人暮らし) 3. 3人 5. 5人 7. 7人 9. 9人						
 2. 2人 間34. あなたには のでお答えく 	4 . 4人 、 日ごろから付き ださい。(数字を 人くらい	6. 6人 8. き合いのある親しい 記入)	<u>8人</u> が何人くらい	いいますか。だいたいで紹		
2. 2人問34. あなたにはのでお答えく問35. あなたの<u>男</u>	4 . 4人 、日ごろから付き ださい。(数字を 人くらい	6. 6人 8. 6. 6人 8. 2. 合いのある親しい 記入) 次のどれにあたり	8人 10. 1 ^友人 が何人くらい ますか。(○はひ	いいますか。だいたいで新 とつ)		
 2. 2人 間34. あなたにはのでお答えく 問35. あなたの野 1. 持ち家(一戸 	4. 4人	6. 6人 8. を合いのある親しい 記入) 次のどれにあたり	8人 10. 1 >友人 が何人くらい ますか。(○はひ 賞 のアパート、マ	いいますか。だいたいで新 とつ)		
 2. 2人 間34. あなたにはのでお答えく 問35. あなたの野 1. 持ち家(一戸 2. 持ち家(分譲 	4. 4人 (大)	6. 6人 8. E合いのある親しい 記入) 次のどれにあたり 4. 賃貸 5. 社会	8人 10. 1 *友人 が何人くらい ますか。(○はひ 貴のアパート、マ 宅、寮、官舎	いいますか。だいたいで新 とつ)		
 2. 2人 間34. あなたにはのでお答えく 問35. あなたの野 1. 持ち家(一戸 	4. 4人 (大)	6. 6人 8. E合いのある親しい 記入) 次のどれにあたり 4. 賃貸 5. 社会	8人 10. 1 >友人 が何人くらい ますか。(○はひ 賞 のアパート、マ	いいますか。だいたいで新 とつ)		

問29. あなたの最初のお勤め先の従業員(働いている人)は、<u>会社全体で何人</u>ぐらいでしたか。

(支社の人数や、家族従業者、パート・アルバイトなども含む)(○はひとつ)

ここから、あなたのご両親についておうかがいします。

問37. あなたのご両親のお生まれは何年ですか。お父さん、お母さんそれぞれについてお答えください。 (年号に○を付けて、数字を記入)

1. 西曆 3. 大正 A.お父さん 年 生まれ 2. 明治 4. 昭和 1. 西暦 3. 大正 B.お母さん 年 生まれ 明治 4. 昭和

問38. あなたのご両親が最後に行かれた学校は、次のどれにあたりますか。お父さん、お母さんそれぞ れについてお答えください。中退、通学中の学校も含めます。(Oはそれぞれひとつ)

A.お父さん

<新制>

<旧制>

- 1. 中学校
- **5.** 大学 (4 年制) **9.** 旧制尋常小学校 **13.** 師範学校

- 2. 高校

- 6. 大学(6年制) 10. 旧制高等小学校 14. 旧制高校・専門学校・高等師範学校
- **3.** 専門学校 **7.** 大学院(修士) **11.** 旧制中学校

・高等女学校

15. 旧制大学

- **4.** 短大・高専 **8.** 大学院(博士)
 - 12. 実業学校
-) 16. その他(具体的に:
- **17**. わからない

B.お母さん

<新制>

<旧制>

- 1. 中学校 2. 高校
- 5. 大学(4年制) 9. 旧制尋常小学校 13. 師範学校

- **6**. 大学(6年制) **10**. 旧制高等小学校 **14**. 旧制高校・専門学校・高等師範学校

- 3. 専門学校 7. 大学院(修士) 11. 旧制中学校 15. 旧制大学
- **4.** 短大・高専 **8.** 大学院 (博士) ・高等女学校
 - 12. 実業学校
- 16. その他(具体的に:)
 - **17**. わからない

問39. あなたが 15 歳くらいの頃、あなたのご両親がなさっていた主なお仕事は、大きく分けてこの中 のどれにあたりますか。(Oはそれぞれひとつ)

A.お父さん

- 1. 経営者、役員
- 6. 自営業主、自由業者 9. 専業主夫(仕事は全くしていなかった)

)

)

- 2. 常時雇用されている一般従業者 7. 家族従業者
- 10. 無職
- 3. 臨時雇用、パート、アルバイト 8. 内職
- 11. 学生

4. 派遣社員

- 12. その他

5. 契約社員、嘱託

- (具体的に:
- 13. 当時、父はいなかった

B.お母さん

1. 経営者、役員

- 6. 自営業主、自由業者 9. 専業主婦(仕事は全くしていなかった)
- 2. 常時雇用されている一般従業者 7. 家族従業者
- 10. 無職
- **3**. 臨時雇用、パート、アルバイト **8**. 内職
- 11. 学生

4. 派遣社員

- 12. その他 (具体的に:
- 13. 当時、母はいなかった

5. 契約社員、嘱託

間40. あなたが 15 歳くらいの頃、あなたの**ご両親**は以下の $A \sim P$ のようなことをどの程度なさっていましたか。最もあてはまるものをお選びください。(Oはそれぞれひとつ)

A.お父さん【問 39A で 1~12(15 歳くらいの頃にお父さんがいた方)のみ】

			よく していた	ときどき していた	めったに していな かった	全くして いなかっ た
A. 国政選挙や自治体選挙の際の投票	\rightarrow	5	4	3	2	1
B. 市民運動への参加	\rightarrow	5	4	3	2	1
C. ボランティア、NPO、NGO 活動への参加	\rightarrow	5	4	3	2	1
D. 募金や寄付	\rightarrow	5	4	3	2	1
E. 美術館や博物館に行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
F. 劇やミュージカルをみる、映画館へ行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
G. クラシックの音楽会、オペラ、バレエに行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
H. レギュラーコーヒーを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
I. 缶コーヒーを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
J. 日本茶を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
K. 紅茶を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
L. ビール・発泡酒を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
M. ワイン・スパークリングワインを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
N. 日本酒を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
0. 焼酎を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
P. たばこを吸う	→	5	4	3	2	1

B.お母さん【問 39B で 1~12(15 歳くらいの頃に<u>お母さん</u>がいた方)のみ】

		いつもしていた	よく していた		:	全くして いなかっ た
A. 国政選挙や自治体選挙の際の投票	\rightarrow	5	4	3	2	1
B. 市民運動への参加	\rightarrow	5	4	3	2	1
C. ボランティア、NPO、NGO 活動への参加	\rightarrow	5	4	3	2	1
D. 募金や寄付	\rightarrow	5	4	3	2	1
E. 美術館や博物館に行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
F. 劇やミュージカルをみる、映画館へ行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
G. クラシックの音楽会、オペラ、バレエに行く	\rightarrow	5	4	3	2	1
H. レギュラーコーヒーを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
I. 缶コーヒーを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
J. 日本茶を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
K. 紅茶を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
L. ビール・発泡酒を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
M. ワイン・スパークリングワインを飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
N. 日本酒を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
0. 焼酎を飲む	\rightarrow	5	4	3	2	1
P. たばこを吸う	\rightarrow	5	4	3	2	1

最後に収入についてうかがいます。調査の性質上、ぜひお答えいただきたい項目です。

【すべての方に】

間41. 過去1年間の、あなたの「<u>個人の収入</u>」にあてはまるものを、1つお選びください。 年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。 だいたいのところで結構です。(○はひとつ)

1. なし	5. 600 万円以上、800 万円未満
2. 1万円以上、200万円未満	6. 800 万円以上、1,000 万円未満
3. 200 万円以上、400 万円未満	7. 1,000 万円以上、1,500 万円未満
4. 400 万円以上、600 万円未満	8. 1,500 万円以上

間42. では、過去1年間の、あなたを含めた「<u>ご家庭全体の収入</u>」にあてはまるものを、1つお選びください。年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください。だいたいのところで結構です。(○はひとつ)

1. 1万円以上、200万円未満	5 . 800 万円以上、1,000 万円未満
2. 200 万円以上、400 万円未満	6. 1,000 万円以上、1,500 万円未満
3. 400 万円以上、600 万円未満	7 . 1,500 万円以上
4. 600 万円以上、800 万円未満	99 . わからない

調査はこれで終わりです。最後に回答漏れがないかご確認をお願いします。 ご協力まことにありがとうございました。